


林業ミニ情報 No.166


令和4年9月



- 1 木育イベント「すくすく子育てフェスタ」が開催される 1
(土浦林業指導所 高信)
- 2 JAなめがたしおさい玉造椎茸部会において
ほだ木の活着検査を実施 2
(鉾田林業指導所 綿引)
- 3 管内で2年ぶりに森林・林業体験学習が開催される 3
(笠間林業指導所 村田)

R 4. 林業ミニ情報（令和4年9月）

（土浦林業指導所 高信 一利）

タイトル	木育イベント「すくすく子育てフェスタ」が開催される
年月日	令和4年6月4日（土）、5日（日）
場所	イーアスつくば（つくば市）
内容	<p>令和4年6月4日から5日の2日間にかけて、「子育てネットワークまもり」が主催する木育イベント「すくすく子育てフェスタ」が、イーアスつくば（つくば市）で開催されました。</p> <p>この木育イベントは、木のおもちゃに触れることなどを通じて、木への親しみや、子どもたちの感性豊かな心を育むことを目的とし、今回で3回目の開催となりました。</p> <p>当日は、木のおもちゃ広場のほか、生活協同組合や地元の木工協同組合などからおよそ15のブースが出展し、家族連れなどの来場者がゆっくりと楽しめる内容でした。</p> <p>当林業指導所では、森林や林業に関するパネル展示と併せ、ヒノキのお箸づくりコーナーを設置したところ、2日間で延べ約100名の方々が参加し、実際に木に触れながら木工体験をしてもらいました。</p> <p>参加者からは、「ヒノキの香りが大好き、癒される」、「森林・林業について興味がわいた」、「木をたくさん使った家に住んでみたい」など、様々な感想をいただくことができました。</p>
	 <p>お箸づくり体験の様子</p>
普及成果等	<p>今回の木育イベントは、ショッピングモール内での開催ということもあり、来場者の年齢層は、木材等に比較的関心の薄い若い世代の家族連れが多い傾向にありました。その中には、木に興味があるという方もいましたが、話を聞くと、森林や林業についてほとんど触れる機会がない方が多かったので、エンドユーザーに対する普及啓発を強化する必要性を感じました。当指導所としては、今後も、様々な機会において、森林・林業のPRをしていきたいと考えています。</p>

タイトル	JA なめがたしおさい玉造椎茸部会においてほだ木の活着検査を実施
年月日	令和4年6月13日（月）
場所	行方市内
内容	<p>令和4年6月13日に、JA なめがたしおさい玉造椎茸部会において、きのこの種菌を取り扱っている森産業（株）の担当者を招き、部会員がそれぞれ令和4年の春に植菌したほだ木の活着検査が行われました。</p> <p>部会員は、もともと県内産の原木を自伐し、シイタケ生産をしていますが、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の影響により、行方市内の原木シイタケ（露地）が国から出荷制限指示を受けたことに加え、県内産の原木も放射性物質に汚染され、使用が困難となったことから、現在は、原木を他県からの購入に切り替え、出荷制限解除の取組を続けています。</p> <p>購入した原木は、伐採時期が統一されておらず、含水量が一定でないことから水分管理が難しいため、植えた菌が正常に活着しているか、全員が気にかけていましたが、検査を終え、順調に活着しているという結果が報告されると、ひとまず安心した様子でした。</p> <p>今後は、10月に同一のほだ木のシイタケ菌の伸長検査を行い、管理が順調に進めば、令和5年秋頃にはシイタケが発生し、その後、放射性物質検査を経て安全性が確認できれば、当該ロットの出荷制限が解除される見込みです。</p>
	 <p style="text-align: center;">活着検査の様子</p>
普及成果等	<p>これまでに、全部会員において出荷制限の一部（ロット）を解除することができましたが、依然として全国的な原木不足が続いており、部会員も生産量を増やすことが難しい状況にあります。</p> <p>当指導所では、原木不足の解消のため、管内の原木林の放射性物質調査を進め、地元産原木でのシイタケ生産再生に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>

タイトル	管内で2年ぶりに森林・林業体験学習が開催される
年月日	令和4年7月21日（木）、22日（金）、25日（月）
場所	笠間市立友部小学校
内容	<p>当指導所管内では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一昨年度から森林・林業体験学習の応募がありませんでした。</p> <p>しかし、今年度に入ると、笠間市立友部小学校から応募があり、当管内において約2年ぶりとなる森林・林業体験学習を実施しました。実施に当たっては、4年生3クラスの計103名をクラス毎に3日間の日程に区切り、3密を回避するなど、コロナ感染防止対策を徹底しました。</p> <p>当日は、はじめに、「もしも、森がなかったら？」をテーマに、森林や森づくりの大切さを理解してもらうための講話を行いました。その後、高性能林業機械の動画を視聴してもらうと、児童たちは、機械の動作や作業音などに驚くとともに、とても興味を持った様子でした。</p> <p>次に、ヒノキの間伐材を使った箸づくりでは、最初に、箸づくりの手順やカンナの使い方を説明してから、実際に作業を始めました。児童たちは、カンナを使う機会がほとんどないため、初めのうちは、使い方に苦戦していましたが、慣れてくるとスムーズに削れるようになり、1人で何膳も仕上げる児童もいました。最後に、児童たちからは、「森や木の大切さがわかった。」「木の柔らかさ、においが良かった。」などの感想があり、森林を身近に感じてもらうことができました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>講話の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>箸づくりの様子</p> </div> </div>
普及成果等	<p>学校教育の中で、森林・林業について学ぶ機会が少ない児童たちにとって、コロナ禍でも体験学習が開催できたことは、大変貴重な時間になったのではないかと思います。当指導所では、今後も、多くの児童や生徒たちに森林・林業の役割や大切さについて、理解と興味を持ってもらえるよう、このような取組を続けてまいります。</p>